

学校給食を早く始めるべきでは

条件が整えば凍結解除



木村 洋子 議員
(日本共産党)

問 子供の「食」を守ることは、将来の町を担う子供たちが健康に育ってもらうための大人や行政の務めであり、子供の生きる権利である。当町は大浦小を除き、学校完全給食の事業が震災の影響でできない状況が続いているが、震災から5年目ともなり、学校給食を早く始めるべきとの声が多い。働く親が多い中で、子育て支援の重要な位置付けとなるのに「なぜ山田は学校給食を始めないのだろう」と町民は不信感を抱き始めているのではないか。

また、社会的環境の変化や種々の大人の事情により、ひとり親の世帯も見受けられ、厳しい子育て環境の中で菓子パンだ

一般質問

けだったり、お弁当を持たせられなかったり、お弁当を作れないから子供を学校に行かせないという家庭もあると聞く。子供たちは学校給食を待ち望んでいるのではないか。「学校に行けばみんなと一緒においしいものを食べられる」という学校に行く楽しみが一つでも増えることは、不登校の防止にもなるのでは。安心して子供を学校に送り出せるという子育て世代への大きな支援策である。そのため、施設

の建設場所の変更等も視野に入れ、事業の開始を急ぐべき。

佐藤町長 学校給食の必要性と町民からの要望が多いことは十分認識している。復興事業の進行状況などの条件が整った段階で事業凍結を解除し、進めていきたい。

建設場所は、生徒数が増え、多い山田中学校への配送時間の短縮や配送費用の削減のため、当初から計画している山田中学校校舎脇に建設する考えに変わりはない。



大浦小学校給食設備

希望ヶ丘団地老朽化への対応は

当面必要に応じ維持修繕で対応

問 町営希望ヶ丘団地は老朽化しており、住民から改修・改良してほしいとの声がある。住宅改良の見通しは。

町長 建設から35年以上が経過し、老朽化が進んでいるのは認識しているが、当面は災害公営住宅の建設を優先する方向である。

問 建て替えの見通しは。

佐々木建築住宅課長 耐 用年数は過ぎていますが、あと数年は維持修繕で対応していく。

街灯不足箇所への対応は

要望を基に調査し対応

問 街灯の増設を望む声が多いが、不足箇所の点検、対応はどのように行っているか。

町長 自治会や地域住民等の要望を基に状況を調査し対応している。

設置基準は、付近に学校などの公共施設があり通行量が多いこと、住宅が3戸以上並んでいることなどだが、夜間の通行状況を確認し、危険な状態であれば対応している。

設置基準は、付近に学校などの公共施設があり通行量が多いこと、住宅が3戸以上並んでいること

その他の質問

◆境田ヘルトコンペーは途切れた状態が半年も続いたがなぜか上豊間根の町道からの落下防止策を施すべきでは